

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 自分なりの考えをもち、表現することができる児童を育成する授業の実践
- 学び合う学習(主にペア学習・グループ学習)を一層取り入れた授業の実践
- タブレット端末等を活かした「主体的・対話的で深い学び」につながる授業の実践

学力向上推進委員会構成

- 学力向上推進員** 委員
- 校長:阿部敏和 教頭:大櫛美由紀
- 教務主任:松岡さゆり 研修主任:谷佳奈江④
- 学年主任:植木朋子① 豊崎由香利②
- 宮本和典⑤ 松尾麻由⑥
- 特別支援教育コーディネーター:村松直子(特支)

校長

阿部 敏和

○次の(1)~(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【取組状況の把握について】

教員の取組の振り返りや学校評価(教員・児童・保護者)、研究授業、管理職の授業参観等により取組状況を把握する。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ○落ち着いた課題に取り組む児童が多く、基礎的・基本的な知識・技能は身に付いてきている。 ●学習内容と既習事項を関連付けて課題を解決していく力が十分に身に付いていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の本質を踏まえ授業のめあてを自分なりに理解し、身に付けた知識・技能を適切に動かせることができる。 ・既習事項や振り返り学習を活用して、新たな課題をスムーズに解決していくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の確実な定着を図るために、タブレットでのドリル学習を活用する。 ・新たな学習課題を解決していくための手立てとして、児童のノートの振り返りや既習事項を掲示したり、ICT 機器を効果的に活用したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習の手引き」を見直し、基礎基本の定着や復習を中心とした内容に変更する。 ・「振り返り」の視点や書き方を学校全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の学習内容や、単元末において繰り返して復習の時間を設け、基礎・基本の定着を図った。また、課題が早く終わった児童には、タブレット端末を用いたドリル学習も行った。 ・「振り返り」を行うことが習慣化されてきた。低学年では主に記号を使い、高学年では、既習事項と学習内容の結びつきを感じさせることができてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も基礎基本の確実な定着を目指し、「家庭学習の手引き」や「学習スタンダード」の共通理解や定期的な見直しに教員全員で取り組んでいく。 ・児童が既習事項を活用して本時の学習に見通しをもつことができるように、ノートや図表、実物、ICT機器等の活動を推進していく。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ○友達の発表をよく聞いたり、自分の考えや意見を書いたりできる児童が増えてきている。 ●目的や意図に応じて友達の発表を聞いたり、自分の考えを明確にして伝えたりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き方「あいうえお」が身に付いている。 ・自分の考えとの共通点・相違点を考えながら聞くことができる。 ・根拠や理由を明らかにしながら相手に分かるように表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えや思いを発表するにあたり、話し方や聞き方のポイントを明確に示す。(掲示物やカードの作成) ・学び合うための話し方を定着させるため、ペア学習やグループ学習といった対話的な学習場面を積極的に取り入れる。 ・タブレットや ICT 機器を効果的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えを「広げる」「深める」ために指導者は学年に応じた問い返しを行う。 ・タブレットが効果的に使われる場面を考えた授業モデルを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し方や聞き方のポイントを繰り返し提示することで、全体に広がり、少しずつではあるが、話し方や聞き方の土台ができつつある。 ・取り組みの頻度や手法が学年や学級に委ねられていたので、学校全体としての統一感に欠けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の意見や考えを聞き、様々な形で伝えられる情報を読み取る力や必要な情報を選び取って生かす力に課題がみられるため、「徳島版読解力」を育成する学習のイメージを参考にして取組を進めていく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ○学習課題や家庭学習にまじめに取り組む児童が増えてきている。 ●難しい課題や時間のかかる課題に、最後まで粘り強く取り組むことが苦手な児童がいる。また、積極的に発表したり意見を交流したりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題や自主学習に進んで取り組むことができる。 ・自己の学びを振り返り、次の学びに対する意欲をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットや ICT 機器を効果的に活用し、話し合い活動や調べ学習に対して主体的に取り組めるようにする。 ・「鴨島小学校学習スタンダード」と PBS を関連付け、児童の主体性を引き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組む意欲が持続する課題を設定する。 ・「学習スタンダード」では、各学年の目標の重点を絞る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末の活用は、児童の「調べたい」という主体性に大いに役立っていた。 ・タブレット端末を用いてグループの話し合いを整理して全体へ広げるという活動は、友達と協働しようとする児童の姿が増えた。 ・学校全体で「0分スタート」の定着が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の様子から取組の効果を実感することができた。学習に向かう環境を自主的に整える(忘れ物をしない、学習準備をしてから休み時間にするなど)ことが当たり前になるように、PBSと関連づけて取組を進めていく。

令和6年度 学力向上ロードマップ

